

平成31年度(令和元年度)

教育総務部 教育総務課の方針書

組織名	教育総務部 教育総務課
所属長名	木村 雅美

1. 組織の使命(ありたい姿)

小中学生が安全で安心して学べる質の高い教育環境の整備を進め、学校施設の適正な配置、管理を行います。また、横手市教育委員会全体の円滑な運営に努めます。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・学校統合計画の円滑な推進
- ・学校施設の長寿命化対策の継続実施
- ・小中学校におけるICT環境の整備

3. 今年度の『スローガン』

目配り・気配り・心配り
聴くこと、話すことを大切に、学校教育を支えます

4. 今年度の方針

- ・十文字小学校開校に向けた教育環境の整備
- ・学校施設長寿命化対策事業の継続実施
- ・ICT機器の計画的配備と活用支援によるICT環境の整備

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	十文字小学校開校に向けた教育環境の整備
	取組内容	・十文字小学校建設工事(工期予定 2019年6月～2021年3月) ・十文字小学校開校準備委員会の設置(設置期間 2019年6月～2021年3月)
(2)	実現したい成果	学校施設長寿命化対策事業の継続実施
	取組内容	・増田中学校長寿命化改良工事(工期 2019年4月～2019年11月) ・旭小学校大規模改修工事(工期 校舎2019年6月～2020年8月、体育館2019年6月～2020年2月) ・平鹿中学校大規模改修工事(工期 2019年6月～2020年1月) ・浅舞小学校調査・設計業務委託(委託期間 2019年4月～2020年3月)
(3)	実現したい成果	・ICT機器の計画的配備と活用支援によるICT環境の整備
	取組内容	・タブレット端末の導入(2019年9月末予定) ・プロジェクターの導入(2019年9月末予定) ・活用支援対策の検討

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 十文字小学校開校に向けた教育環境の整備
 - ・5月末に敷地造成工事(第2工区)完成。6月に建築工事契約締結。9月末で杭工事が完了。建設工事進捗率8.73%
 - ・5月に第1回開校準備委員会を開催しスケジュールや役割確認を行うとともに、各小委員会ごとに開校に向けた準備を開始
 - ・7月に十文字地域4小学校のPTA説明会を実施
- (2) 学校施設長寿命化対策事業の継続実施
 - ・増田中学校長寿命化改良工事(普通教室棟および体育館棟改修工事)
4/11 PTA説明会実施 9月末工事進捗率98.1%
 - ・旭小学校大規模改修工事(5月に契約締結。9月末の建築工事進捗率(校舎棟27.9%、体育館棟69%)
 - ・平鹿中学校大規模改修工事 9月末の建設工事進捗率68.3%
 - ・浅舞小学校調査・設計業務委託(7月に契約締結。8月に第1回設計打合せ)
- (3) ICT機器の計画的配備と活用支援によるICT環境の整備
 - ・プロジェクターの導入(委託期間 2019年7月～2019年9月、各小学校に合計52台導入)
 - ・活用支援対策の検討(2019年8月の操作研修会時にプロジェクターの活用事例を共有)

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 十文字小学校開校に向けた教育環境の整備
 - ・3月末までに基礎工事及び多目的駐車場(十文字野球場駐車場)整備工を完了。建設工事進捗率25.5%を目標
 - ・第2回開校準備委員会を開催し、開校に向けた準備状況の確認と、公募により応募のあった中から校歌歌詞、校章を選考
- (2) 学校施設長寿命化対策事業の継続実施
 - ・増田中学校長寿命化改良工事
2019年11月中旬 普通教室棟および体育館棟中間検査
11月末 完成検査・仮設校舎解体撤去工事
 - ・旭小学校大規模改修工事 校舎棟2020年8月完成予定、体育館棟2020年2月完成予定
 - ・平鹿中学校大規模改修工事 2020年1月完成予定
 - ・浅舞小学校調査・設計業務委託 2020年2月完了予定
- (3) ICT機器の計画的配備と活用支援によるICT環境の整備
 - ・タブレット端末の導入(2020年2月末予定 各中学校に合計120台導入)
 - ・活用支援対策の検討

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 十文字小学校開校に向けた教育環境の整備
 - ・基礎工事及び多目的駐車場(十文字野球場駐車場)整備工を3月に完成(建設工事進捗率22%達成)
 - ・第2回開校準備委員会を2月19日に開催し、開校に向けた準備状況の確認と、公募により応募のあった中から校歌歌詞、校章の選考を行った。
- (2) 学校施設長寿命化対策事業の継続実施
 - ・増田中学校長寿命化改良工事
普通教室棟および体育館棟、2019年11月20日完成
仮設校舎解体工事、2020年1月31日完了
 - ・旭小学校大規模改修工事
体育館棟、2020年2月7日完成(機械設備工事は、2019年12月27日完成)
校舎棟、2020年8月完成予定(Ⅰ期工事3月18日完成)
 - ・平鹿中学校大規模改修工事
校舎体育館棟2020年3月13日完成(電気設備・機械設備工事は、1月17日完成)
 - ・浅舞小学校調査・設計業務委託
2020年2月28日完了
- (3) ICT機器の計画的配備と活用支援によるICT環境の整備
 - ・プロジェクターを各小学校に合計52台導入した。
 - ・国の「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」(令和元年12月5日閣議決定)により、学校における高速大容量のネットワーク環境の整備と、児童生徒1人1台端末の整備を推進する「GIGAスクール構想」が示された。今後、国や県の動向を踏まえネットワーク環境の整備と端末導入について検討していく。
 - ・今年度予定していたタブレット端末の導入については、令和2年度導入予定の台数と合わせて導入していく。
 - ・活用支援対策を引き続き検討していく。

平成31年度(令和元年度)

教育総務部 生涯学習課の方針書

組織名	教育総務部 生涯学習課
所属長名	森田 博範

1. 組織の使命(ありたい姿)

「いつでも どこでも だれでも なんでも 楽しく学び、学びによるまち・ひとづくり」の実現

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・社会総がかりでの教育の推進体制・環境の構築
- ・地区交流センター事業内容の深化

3. 今年度の『スローガン』

- ◎明るく元気に、チーム一丸となって！
- クリティカル思考で…「より良い」を追い求めよう！

4. 今年度の方針

- ・学校、家庭、地域における双方向連携による協働体制の推進を図る。
- ・郷土学習の更なる推進により郷土愛の醸成を図る。
- ・地区交流センター事業内容の深化を図る。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	地域学校協働活動の推進
	取組内容	・学校支援活動による・学校、家庭、地域の連携・協働の更なる推進 ⇒コーディネーターの配置拡大(2地区)、家庭教育支援チームの発足 ・わくわく子ども教室での体験活動の充実 ⇒8地域16教室の開設
(2)	実現したい成果	老若男女問わずの郷土愛醸成
	取組内容	・総合テキスト「よこてだいすき」の活用等による郷土学習の更なる推進 ⇒公民館講座等の活用
(3)	実現したい成果	地区交流センター事業の深化
	取組内容	・地域課題の掘り起こし、解決に向けた取り組みを地域づくり支援課とともに強化・支援 ・地区交流センター事業実施に向けた調整推進

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 地域学校協働活動の推進
 - ・新たに2地区(3小学校区)に3名のコーディネーターを配置(全9名)。各種学習補助など学校と地域の連携・協働による子どもの育成を推進した。
 - ・家庭教育支援チーム(どんぐりすのもり)を発足し、本格活動を開始。
 - ・夏休み子ども教室を開催(8地域16教室)。住民参画による地域教育力の向上を図りながら、子どもの体験・交流活動を推進した。
- (2) 老若男女を問わずの郷土愛醸成
 - ・総合テキスト「よこてだいすき」などを活用した郷土学習講座を11回開催。子ども向けはもちろん、公民館講座をはじめ大人向けも好評を博し、楽しみながら「故郷を知る」教育活動を推進した。
- (3) 地区交流センター事業の深化
 - ・生涯学習推進計画評価委員会による評価結果を各センター等に周知し、効果的な事業実施(フィードバック)を要請した。
 - ・十文字西地区で地域の課題解決に向けたワークショップを開催中。
 - ・R2年度金沢地区での交流センター事業実施に向け、地域づくり支援課と共に関係機関と協議中。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 地域学校協働活動の推進
 - ・引き続き、学校と地域の連携・協働を図る。なお、双方向協働を推進するため、コーディネート後(子どもたちの学習成果)の地域に対するフィードバック方法について検討を進めたい。
 - ・家庭教育支援チームの知名度向上に向けた取り組みを図る。
 - ・冬休み子ども教室を開催する(8地域16教室)。なお、事業趣旨の理解が不足するケースも散見されることから、教育活動の一環であることなど、保護者の方にも教室運営のルールなどを理解してもらうよう努める。
- (2) 老若男女を問わずの郷土愛醸成
 - ・引き続き、各種郷土学習講座等を開催する。
- (3) 地区交流センター事業の深化
 - ・各センター長(公民館長)との個別協議を実施する。
 - ・次年度に向け事業の見直し(廃止・統合・新規)を行う。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 地域学校協働活動の推進
 - ・コーディネーターを2地区(3か所)拡大して配置(全9名)し、学校と地域の協働による子供たちの健全育成を推進。子どもたちの学習成果の地域へのフィードバックが少ない状況にあることから、学校担当者とも協議を継続する。なお次年度に向けては、これまでの事業実績を精査しつつ、横手市版CS(コミュニティスクール)の導入に向け、具体的な検討を進めたい。
 - ・国に家庭教育支援チームの登録を申請(どんぐりすのもり)。子育てや健康、食などの学びのほか保護者交流、相談会などを実施。知名度向上に向け、PTA・就学時検診時に活動紹介等を行ったが、今後も引き続き効果的なPRに努めたい。
 - ・地域住民や企業等の協力を得ながら、長期休業中に子ども教室を開設し、多様な学習講座等を実施。子ども達には普段できないような体験・交流機会を提供できた。また地域人材の活用を主とした教室であることから、地域で子どもを育てる意識の醸成に結びついているものとする。なお、参加者には問題行動をする子も散見され、注意を要することから、指導者の労力軽減等を目的に次年度は開催日数の縮小を検討している。
- (2) 老若男女を問わずの郷土愛醸成
 - ・郷土学習講座等を大人向け14回、子ども向け9回実施。趣向を凝らした講座実施に努め、楽しみながら郷土を学ぶ機会を提供できた。
- (3) 地区交流センター事業の深化
 - ・センター化またはセンター事業実施に向け、地域づくり支援課や各地域局主催ワークショップ等に参加
 - ・公民館長会議や一部公民館長との対話を通じ、今後の方向性や見直し等を確認
 - ・防災意識の高揚等を目的とした合同研修会を開催し、地域課題等の解決に向けたセンター事業実施の必要性の意識づけができた。
 - ・次年度に向けては引き続き、評価委員会の評価結果のフィードバック等も通じ、センター事業の深化を促進したい。

平成31年度(令和元年度)

教育総務部 スポーツ振興課の方針書

組織名	教育総務部 スポーツ振興課
所属長名	加藤 貞純

1. 組織の使命(ありたい姿)

「元気なまちを築く生涯スポーツの推進」

・すべての市民が様々な形でスポーツに親しむことができるよう、健康で楽しめる生涯スポーツを推進してまいります。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・運動習慣の定着化による市民の健康増進支援
- ・2020東京オリンピックを見据えたホストタウン事業の推進
- ・老朽化したスポーツ施設の整備・修繕計画(案)の推進
- ・スポーツ施設の指定管理者制度導入による効率的な施設運営の支援

3. 今年度の『スローガン』

視野を拓げる！

4. 今年度の方針

- ・だれもがスポーツに親しめる機会の充実に向けた取り組み
- ・2020東京オリンピック開催を契機とした市民のスポーツへの興味・関心の向上を図る
- ・スポーツをする場の整備・充実に向けた課題の解消
- ・スポーツ施設の指定管理者との連携による利用者のサービス向上策の検討と利用者ニーズの把握

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民の健康増進につながるよう、スポーツ振興事業への参加率向上
	取組内容	・よこてシティハーフマラソン、チャレンジデーへの参加を促進するとともに、市民の運動機会を創出する。 ・赤坂総合公園スノーパークのさらなる充実を図る。 ・スポーツ推進委員会との連携を深め、ニュースポーツなどの紹介や情報発信を行う。
(2)	実現したい成果	2020東京オリンピックを契機とした市民参加型の関連イベントの開催
	取組内容	・オリンピック参加する全日本3×3バスケットチームなどの合宿誘致を行い、市民の2020東京オリンピック競技への関心や応援の強化を図る。 ・ホストタウン国バドミントンジュニアチームと青少年交流を継続し、今後様々なスポーツと連携できるよう相手国と検討・調整する。 ・オリンピックによるバドミントン教室(競技者、初心者)を行い、バドミントンを活用した生涯スポーツの推進に取り組む。
(3)	実現したい成果	スポーツ施設の適切な管理運営を進め、市民の施設利用満足度の向上
	取組内容	・十五野公園野球場グラウンド等改修工事、大森公園テニスコート整備を進める。 ・市FM計画の方針に基づき、老朽化したスポーツ施設の整備・修繕について方向性を協議

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 市民の健康増進につながるよう、スポーツ振興事業への参加率向上
 - ・チャレンジデーは香川県丸亀市と対戦し、横手市の参加率は83.1%で勝利した。
 - ・よこてシティハーフマラソンは昨年度より多い1031名が完走し、おもてなし部門や協賛広告などを強化し運営の充実が図られた。
- (2) 2020東京オリンピックを契機とした市民参加型の関連イベントの開催
 - ・全日本3×3バスケットチームの合宿を開催し、市民の2020東京オリンピック競技への関心や応援の強化が図れた。
 - ・元バドミントン日本代表選手である小椋久美子さんによる、中高生を対象としたバドミントン教室を9月に開催した。
- (3) スポーツ施設の適切な管理運営を進め、市民の施設利用満足度の向上
 - ・十五野公園野球場グラウンド改修工事及び大森公園テニスコート整備のための大森プール等の解体工事が進められている。
 - ・市FM計画の方針に基づき、老朽化したスポーツ施設の整備・修繕の方向性について関係課との協議を行った。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 市民の健康増進につながるよう、スポーツ振興事業への参加率向上
 - ・赤坂総合公園スノーパークの利便性充実を図りながら利用促進を周知し本格稼働していく必要がある。
 - ・スポーツ推進委員会を主体として、施設のバックヤードツアーを実施し、ニュースポーツなどの紹介等を行っていく。
- (2) 2020東京オリンピックを契機とした市民参加型の関連イベントの開催
 - ・ホストタウン国であるインドネシア共和国ジャルム社バドミントンジュニアチームと青少年交流を継続し、今年度は横手ジュニアチームがインドネシア共和国で合宿を行う予定。
 - ・小椋久美子さんによる、一般向けバドミントン体験会と講演会を開催し、バドミントンを活用した生涯スポーツを推進していく。
- (3) スポーツ施設の適切な管理運営を進め、市民の施設利用満足度の向上
 - ・市FM計画の方針に基づき、老朽化したスポーツ施設の整備・修繕の計画について、現在の案をもとに関係課と方向性や内容等について協議し、計画策定を進めていく。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 市民の健康増進につながるよう、スポーツ振興事業への参加率向上
 - ・チャレンジデーでは自転車による市内横断などの新企画を行い、よこてシティハーフマラソンでは昨年度以上の市民ボランティアの協力があり、市民の運動行事への参加機会のきっかけとなった。また、赤坂総合公園スノーパークに関しては暖冬の影響で昨年度並みの運営は出来なかったため暖冬時の運営方法について検討していく必要がある。
 - ・体育施設の裏側を見学するバックヤードツアーをスポーツ推進委員の協力のもと行うとともに、ニュースポーツ体験など新たな取り組みを行った。市と推進員の役割を明確化し推進員が更に自主的に活動を図れるようにしていく。
- (2) 2020東京オリンピックを契機とした市民参加型の関連イベントの開催
 - ・全日本3×3バスケットチームの合宿を開催したのをきっかけに、次年度のオリンピック事前合宿を招致し市民と一体となった応援と気運の醸成を図る。
 - ・元バドミントン日本代表選手である小椋久美子さんによるバドミントン教室やバドミントン体験会を行った。今後もバドミントン競技力の向上やバドミントンを楽しんでいただけるよう、生涯スポーツの一つとして推進していく。
 - ・横手バドミントンジュニアチームによる、インドネシア共和国での海外合宿が無事に終了した。参加した選手、監督などから感想や提案をいただき、横手市のバドミントンの普及や競技力向上を推進していく。
- (3) スポーツ施設の適切な管理運営を進め、市民の施設利用満足度の向上
 - ・これまでの関係課との協議をふまえ、施設の方向性や維持コストなどを関係課と継続協議しながら、精度の高い修繕計画にしていくため専門業者の参画による計画案を策定していく必要がある。

平成31年度(令和元年度)

教育総務部 文化財保護課の方針書

組織名	教育総務部 文化財保護課
所属長名	上法 満

1. 組織の使命(ありたい姿)

・「よこての伝統文化の継承と文化的資産の活用」によるシビックプライドの醸成

2. 組織の抱える課題(現状)

・「金沢城跡」の発掘調査の継続と翌年度以降の方針決定
・ほ場整備など開発行為に伴う緊急発掘調査
・「横手を学ぶ郷土学」の継続

3. 今年度の『スローガン』

自分の業務・課員の業務をよく知る、会話を交わす

4. 今年度の方針

・埋蔵文化財発掘調査の計画的な実施と成果の公開・活用
・「文化財の指定・登録・保存」のための調査と、その後の活用
・「横手を学ぶ郷土学」への取り組みと歴史に接する機会の提供

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	文化的資産の把握と周知・保存・活用
	取組内容	史跡等の調査を継続するとともに、特に後三年合戦関連遺跡についてはシンポジウムなどで情報発信する。
(2)	実現したい成果	「横手を学ぶ郷土学」の推進と定着
	取組内容	総合テキスト等の配布事業・伝統芸能後継者育成チーム支援事業・横手市創作子ども歌舞伎制作上演事業・横手市子ども伝統芸能発表大会開催事業の実施。
(3)	実現したい成果	資料館施設の魅力ある運営
	取組内容	集客力のある特別展を企画する。地域の先達や文化的資産をより多くの来館者に伝え、親しまれる施設にする。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 文化的資産の把握と周知・保存・活用
- 4/26 4月定例教育委員会 市指定有形文化財「長安寺方便法身尊像」指定
 - 4/27・5/11 歴史文化基本構想まちあるきワークショップ(増田地域:参加者22名) 5/25(横手地域:参加者25名)
 - 5/13～8/9 柴崎遺跡発掘調査 7/27現地説明会(来場者70名)
 - 7/5 後三年合戦関連遺跡金沢城跡現地指導(後三年合戦関連等遺跡整備指導委員会及び後三年合戦史跡検討会委員8名)
 - 6/17～12/13 金沢柵推定地金沢城跡発掘調査
 - 8/4～8/10 青山学院大学考古学実習 金沢城跡発掘調査 24名
 - 9/29 後三年合戦沼柵公開講座「未発見の城柵解明の取り組みと北の境界領域からみた日本史」雄物川コミュニティセンター(入場者200名)
- (2) 「横手を学ぶ郷土学」の推進と定着
- 9/13 金沢掛唄育成チーム市民ワークショップ 金沢孔城館(参加者29名)
 - 9/14 横手を学ぶ郷土学 金沢掛唄よこてチャレンジキッズ「金澤八幡宮伝統掛唄出場」横手北小児童7名、新潟大学9名
 - 9/22 創作子ども歌舞伎大雄公演 大雄小学校体育館(入場者400名)
- (3) 資料館施設の魅力ある運営
- 4/27～6/23 雄物川郷土資料館第1回特別展「衣装展～祝いの装い～」(入場者1,141名)
 - 7/13～9/16 " 第2回特別展「進化の造形～美しい化石たち～」(入場者609名)
 - 4/20～6/16 後三年合戦金沢資料館第1回特別展示「兼廣と榎溪～横手の幕末を生きた刀工と画家～」(入場者1,076名)
 - 7/27 ザ・後三年合戦ストーリー:後三年合戦金沢資料館・金沢歴史文化の里づくりをすすめる会(参加者23名)
 - 8/24 " (参加者20名)
 - 8/16～8/20 國學院大學博物館実習 雄物川郷土資料館 16名

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

重点取組(1)(2)(3)とも順調に事業が進捗しているが、業務量の増加に比例し職員の時間外勤務も増えており、調整が困難になってきている。

【10月～3月の主な取組】

- (1) 文化的資産の把握と周知・保存・活用
- 11/5 後三年合戦関連遺跡金沢城跡現地指導(後三年合戦関連等遺跡整備指導委員会及び後三年合戦史跡検討会委員7名)
 - 11/9 金沢柵推定地金沢城跡第11次調査現地説明会(来場者50名)
 - 11/11～11/25 令和2年度ほ場整備地区試掘調査(下福田・浅舞北部地区)
 - 1/31 第1回文化財保護審議会 条里南庁舎
 - 3/18 第2回文化財保護審議会 条里南庁舎
 - 3/20～21 後三年合戦関連遺跡整備指導委員会及び後三年合戦史跡検討会 条里南庁舎
- (2) 「横手を学ぶ郷土学」の推進と定着
- 11/4 子ども伝統芸能発表大会 横手市民会館 出演6団体(入場者180名)
 - 11/16 発酵伝承ワークショップ 金沢孔城館(参加者50名)
- (3) 資料館施設の魅力ある運営
- 10/12～15/15 雄物川郷土資料館第3回特別展「刀剣展～姿の美を求めて～」(入場者1,410名)
 - 1/18～3/22 " 第4回特別展「第31回ひな人形展～旧家の人形たち～」
 - 10/19～12/22 後三年合戦金沢資料館第2回特別展示「横手の郷土玩具～中山人形展～」(入場者856名)
 - 2/8～3/29 " 第3回特別展示「後三年合戦顕彰活動の歩み展～明治・大正・昭和～」

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 文化的資産の把握と周知・保存・活用
- 国登録有形文化財候補3件について文化庁調査官の現地調査を経て、登録申請を行った。
 - 県営ほ場整備に伴う発掘調査について、前年度の発掘調査面積過多を踏まえて県と調整を行い、現有体制に見合った面積とし計画通り実施した。
 - 金沢柵推定地金沢城跡発掘調査は、南東尾根部約120㎡を実施。大規模な土塁・空堀・堅穴建物などを確認した。
 - 今年で8回目となる後三年合戦沼柵公開講座では、今年から雄物川地域で雄勝城の解明に取り組んでいる民間団体代表の活動紹介もされ多くの入場者があり、特に地元住民の期待の大きさを感じた。
- (2) 「横手を学ぶ郷土学」の推進と定着
- 横手を学ぶ郷土学総合テキストの配布を平成29年度から継続しており、小中学校において様々な活用がなされ、その取り組みは教職員との共有フォルダに蓄積されている。
 - 6年目となる創作子ども歌舞伎は大雄小学校体育館を会場に上演され、子どもたちは長期間にわたる稽古の成果を思う存分披露することができた。
 - 子ども伝統芸能発表大会は総合的に見直す時期にきており、他の類似イベントとの合同開催などについて検討していきたい。
 - 新たな伝統芸能育成団体への支援については、対象集落の少子高齢化などにより存続や再興が課題となっていることから、引き続き協議や支援が必要である。
- (3) 資料館施設の魅力ある運営
- 施設設備や予算の関係で特別展の内容に制約が生じている。ほとんどが所有者の善意により借用した展示物で構成している。

平成31年度(令和元年度)

教育総務部 図書館課の方針書

組織名	教育総務部 図書館課
所属長名	佐藤 輝明

1. 組織の使命(ありたい姿)

市民の豊かな教養と文化の向上に資する図書館を目指します

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・読書文化の振興や情報交流の推進
- ・読書活動の支援の充実
- ・図書館の設備や機能の充実

3. 今年度の『スローガン』

すべての市民に愛され・役立ち・成長し合える図書館を目指して！

4. 今年度の方針

- ・地域の特徴を活かした図書館づくりと、資料収集及びその提供
- ・第2次横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画第3次計画に基づいた読書活動の推進
- ・「今後の市立図書館の方向性」の具現化に向けた検討

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	地域の特徴を活かした図書館づくりと、資料収集及びその提供
	取組内容	・地域の特徴を活かしたサービスを展開している図書館視察の実施や、研修会への参加 ・地域におけるニーズ調査の検討
(2)	実現したい成果	第2次横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画第3次計画に基づいた読書活動
	取組内容	・市内関係課との連携と情報共有、子ども読書活動推進委員会における情報共有と協議 ・第2次横手市子ども読書活動推進計画の目標達成に向けた具体的なスケジュールの設定 ・読書に関する作品コンクールやイベントにおける読書情報の提供
(3)	実現したい成果	「今後の市立図書館の方向性」の具現化に向けた検討
	取組内容	・幅広い年代の市民が気軽に集うことのできる図書館の検討 ・市民の成長を応援する図書館の検討 ・市立図書館体制の検討

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 地域の特徴を活かした図書館づくりと、資料収集及びその提供
⇒秋田県図書館協会、県南図書館協会、県立図書館 等主催研修への参加と、その内容の活用
⇒重点収集項目に基づく資料の収集と、カウンター業務等を通じた地域におけるニーズの確認
- (2) 第2次横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画第3次計画に基づいた読書活動の推進
⇒「おすすめの本100選 Ver.2」の作成
- (3) 「今後の市立図書館の方向性」の具現化に向けた検討
⇒横手駅東口再開発事業における「公益施設」のあり方の検討
⇒地域情報化アドバイザーとの協議の実施

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 地域の特徴を活かした図書館づくりと、資料収集及びその提供
⇒実施できていない先進図書館視察の検討
⇒聞き取った地域におけるニーズ等の精査に基づき、「特徴を活かした図書館づくり」の実現
- (2) 第2次横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画第3次計画に基づいた読書活動の推進
⇒「子ども読書活動推進委員会」の開催と、目標達成に向けた具体的なスケジュールの確認
- (3) 「今後の市立図書館の方向性」の具現化に向けた検討
⇒横手駅東口再開発事業における「新横手図書館」整備計画の具体化
⇒市立図書館全6館体制のあり方の検討

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 地域の特徴を活かした図書館づくりと、資料収集及びその提供
⇒先進図書館視察は、実施できなかったため次年度以降、検討したい。
⇒聞き取ったニーズを精査し、資料収集方針に基づき各館の重点収集資料を購入し、提供した。
次年度は、さらなるニーズの精査に努め、「特徴を活かした図書館づくり」をしっかりと進める必要がある。
- (2) 第2次横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画第3次計画に基づいた読書活動の推進
⇒「子ども読書活動推進委員会」の開催と、目標達成に向けた具体的なスケジュールの確認ができなかったため
早急の実施しなければならない。
- (3) 「今後の市立図書館の方向性」の具現化に向けた検討
⇒横手駅東口再開発事業における「新横手図書館」整備について、関係部署と連携しながら基本設計にむけて整備内容を具体化した。
⇒市立図書館全6館体制のあり方について、中央図書館、基幹館等の考え方を再検討することとした。